ユーザーガイド

AWS 料金見積りツール

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS 料金見積りツール: ユーザーガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスはAmazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS 料金見積りツール 1
の機能 AWS 料金見積りツール 1
の料金 AWS 料金見積りツール 2
入門 3
を使用するための前提条件 AWS 料金見積りツール 3
アクセス AWS 料金見積りツール 3
コンソールを使用する 3
の見積りの作成 6
見積りの作成と設定 6
見積りの作成 7
サービスを構成する 7
サービスを追加する 9
入力を編集する 9
サポート コストの追加 10
手順 10
見積りの管理 12
見積りのグループ化 12
グループの作成 13
グループの移動 13
見積りの共有 14
見積りリンクの共有 15
保存された見積りの更新 15
見積りのエクスポート 17
Simple Monthly Calculator からの移行 17
見積もりの違い 18
サービスの例 20
Amazon EC2 の見積りの作成 20
手順 20
Amazon EC2 インスタンス仕様 21
支払いオプション 23
Amazon Elastic Block Store (EBS) 24
詳細なモニタリングコスト 24
データ転送コスト 24
Elastic IP コスト 25

追加料金 25
Windows Servers and SQL Servers on EC2 の見積りの生成 25
手順 26
ライセンシングとテナンシーの推奨事項 26
マシン仕様の設定 27
料金戦略 30
コストの詳細 30
Windows and SQL Servers on EC2 の見積りチュートリアル 31
Windows and SQL Servers on EC2 Dedicated Hosts の見積りの生成 36
手順 37
ライセンシングとテナンシーの推奨事項 38
マシンの仕様 38
専有ホストを確認 39
料金戦略 39
コストの詳細 40
専有ホストの一括アップロード手順 40
AWS Modernization Calculator を使用した Microsoft の見積りの生成 42
手順 43
アーキテクチャのカテゴリとパターン 44
アーキテクチャサイズ 45
モダナイズされたアーキテクチャパターン 45
AWS サービス設定 45
マイ見積り 46
セキュリティ 47
データ保護 47
コンプライアンス検証 48
リソース 50
サービス固有のリソース 50
一般的な AWS リソース 50
ドキュメント履歴 52
..... liii

とは AWS 料金見積りツール

AWS 料金見積りツール は、 AWS サービスを使用するためのコスト見積もりを作成するために使用できる無料のウェブベースの計画ツールです。次のユースケース AWS 料金見積りツール で を使用できます。

- 構築する前にソリューションをモデル化する
- AWS サービスの料金ポイントを調べる
- 見積りの背後にある計算を確認する
- AWS 支出を計画する
- コスト削減の機会を見つける

たとえば、既存の AWS 顧客で、週ごとのスパイクトラフィックを処理する別の EC2 インスタンスを追加する場合です。毎週のピーク情報を指定し、EC2 インスタンスと支払いオプションを選択できます。 は、前払い、月額、年間コストを含む見積り AWS 料金見積りツール を生成します。見積りを使用して、 AWS サービスを使用する前に情報に基づいた決定を行うことができます。

> **Note**
> クラウドコンピューティングや AWS の使用経験は必要ありません AWS 料金見積りツール。このツールは、 AWS 以前に使用したことがないユーザーや、 AWS 使用を再編成または拡張したいユーザーに役立ちます。

ウェブベースのコンソール AWS 料金見積りツール から にアクセスできます。https://calculator.aws/#/

の機能 AWS 料金見積りツール

では AWS 料金見積りツール、次のタスクを実行できます。

- 明確な料金を表示 - サービス構成の見積り料金の計算内容を表示します。アーキテクチャコストを分析するために、サービス別またはサービスグループ別の見積り価格を確認できます。
- 階層型見積りにグループを使用 - 明確なサービスコスト分析を得るため、見積りをグループに分類してアーキテクチャに合わせます。

- 見積りの保存 - 各見積りへのリンクを保存して、後で共有または再確認します。見積りは AWS パブリックサーバーに保存されます。
- 見積りのエクスポート - 見積りを CSV または PDF 形式でエクスポートして、ステークホルダーとローカルで共有します。

の料金 AWS 料金見積りツール

AWS 料金見積りツール は、使用できる無料のツールです。 AWS 料金と料金の見積もりは提供されますが、適用される可能性のある税金は含まれていません。 は、入力した情報のみの料金詳細 AWS 料金見積りツール を提供します。マーケティングページの料金が の料金と異なる場合 AWS 料金見積りツール、 は見積りを生成するときにマーケティングページの料金 AWS を使用します。 AWS サービスの料金詳細については、「クラウドサービス料金」を参照してください。

見積り AWS 料金見積りツール の の料金は、 AWS Price List API から取得されます。 AWS Price List API の詳細については、 AWS Billing ユーザーガイドのAWS 「Price List API の使用」を参照してください。

入門

このセクションでは、 の使用を開始する方法の概要を説明します AWS 料金見積りツール。計算ツールを使用するための前提条件、計算ツールへのアクセス方法、コンソールの操作方法を理解するのに役立ちます。

トピック

- を使用するための前提条件 AWS 料金見積りツール
- アクセス AWS 料金見積りツール
- AWS 料金見積りツール コンソールの使用

を使用するための前提条件 AWS 料金見積りツール

AWS アカウント AWS や の詳細な知識は必要ありません AWS 料金見積りツール。

最良の結果を得るには、見積り AWS を開始する前に、 の使用方法を計画することをお勧めします。例えば、コストセンター別、実行する製品別 AWS、リージョンスタック別に見積りを分割するかどうかを決定します。次に、[Group] (グループ) 機能で見積りを整理します。

アクセス AWS 料金見積りツール

AWS 料金見積りツール は、#/ https://calculator.aws/ のウェブベースのコンソールから入手できます。現在、利用できる API はありません。

を使用して AWS 料金見積りツール 、任意のサービスで AWS リージョン サポートされているすべての の月額コスト見積もりを生成できます。各サービスが利用可能なリージョンについては、対応するサービスユーザーガイドのドキュメントをご参照ください。

中国リージョンのコストを見積もるには、https://calculator.amazonaws.cn/ AWS 料金見積りツールから にアクセスできます。

AWS 料金見積りツール コンソールの使用

AWS 料金見積りツール は、4 つの主要なコンソールページで構成されます。

- ランディングページ

このページでは、ツールの仕組みの概要と、見積りを作成するためのリンクを提供します。また、マーケティングのよくある質問、料金の前提条件などの主要なリソースへのリンクも提供します。

直接リンク: https://calculator.aws/#/

- サービスページを追加

  [見積りの作成] ボタンを選択すると、[サービスの追加ページ] に移動します。このページには、が AWS 料金見積りツール サポートするすべての AWS サービスのリストが表示されます。ロケーションタイプでサービスをフィルタリングし、キーワードまたはサービス名を入力してサービスを検索できます。製品ページのリンクを使用して、各サービスの詳細情報を見つけることもできます。

  直接リンク: https://calculator.aws/#/addService

- サービスの設定ページ

  サービスの [設定] リンクを選択すると、サービスの設定ページに移動します。このページを使用して、見積り AWS リージョン を作成する を選択し、ユースケースに基づいてサービス固有の詳細を入力できます。ユースケースの仕様を入力すると、見積りにこれらを追加できます。

- マイ見積りページ

  このページには、見積りの概要として、前払いコスト、月次コスト、12 か月間のコストが表示されます。12 か月間のコストは、すべての見積りおよびグループの合計です。[グループ] セクションと [マイ見積り] セクションには、見積り内のサービスのリストが表示されます。このセクションでは、新しいサービスおよびサポートの追加、新しいグループの作成を行うことができます。

  さらに、マイ見積りページを使用して、見積りを CSV ファイルまたは PDF ファイルにエクスポートしたり、見積りリンクを保存したり、 AWS コンソールに移動してサインインしたり、アカウントを作成したりできます。

  直接リンク: https://calculator.aws/#/estimate

> **Note**
>
> AWS には、一部の AWS サービスを無料で試すために使用できる無料利用枠が用意されています。無料利用枠は、特定のインスタンスまたは使用範囲のみを対象としており、期間が限定されます。特に明記されていない限り、無料利用枠は見積りに含まれ AWS 料金見

積りツール ません。 は、無料利用枠を使用しておらず、見積りに期限切れの無料利用枠が含まれていないことを AWS 料金見積りツール 前提としています。

で見積りを生成する AWS 料金見積りツール

このセクションでは、 AWS 料金見積りツール を使用してユースケースの見積りを生成する方法について説明します。以下のステップバイステップのプロセスでは、サービスの設定方法、インスタンスタイプやストレージなどのパラメータの指定方法、詳細な見積りを作成するためのサービスの追加方法について説明します。

見積りを最大限に活かすため、基本的な要件を把握しておく必要があります。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を試す場合、必要なオペレーティングシステムのタイプ、メモリ要件、I/O 容量を知っておくことをお勧めします。

さらに、ストレージが必要かどうかを判断する必要があります。例えば、データベースを実行するかどうか、および必要なサーバーをどれくらいの期間で使用するか決めます。 AWS 料金見積りツール サービス設定とパラメータを使用して、特定のユースケースと予算を満たすオプションを確認できます。

トピック

- 見積りを作成して設定する
- 見積りへの サポート コストの追加

見積りを作成して設定する

AWS 料金見積りツール では、さまざまなサービスで予測される AWS 使用量とコストの詳細な見積りを生成できます。次の手順では、新しい見積りを作成し、含める特定の AWS サービスを設定し、テクニカルサポート要件に基づいて サポート プランなどのサービスを追加する方法に関するステップバイステップのプロセスを提供します。

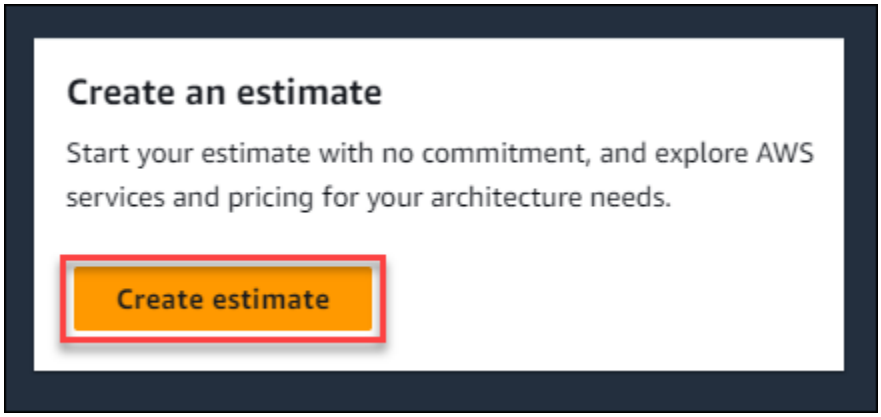
トピック

- 見積りの作成
- サービスを構成する
- サービスを追加する
- 入力を編集する

見積りの作成

見積りを作成するには

1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。



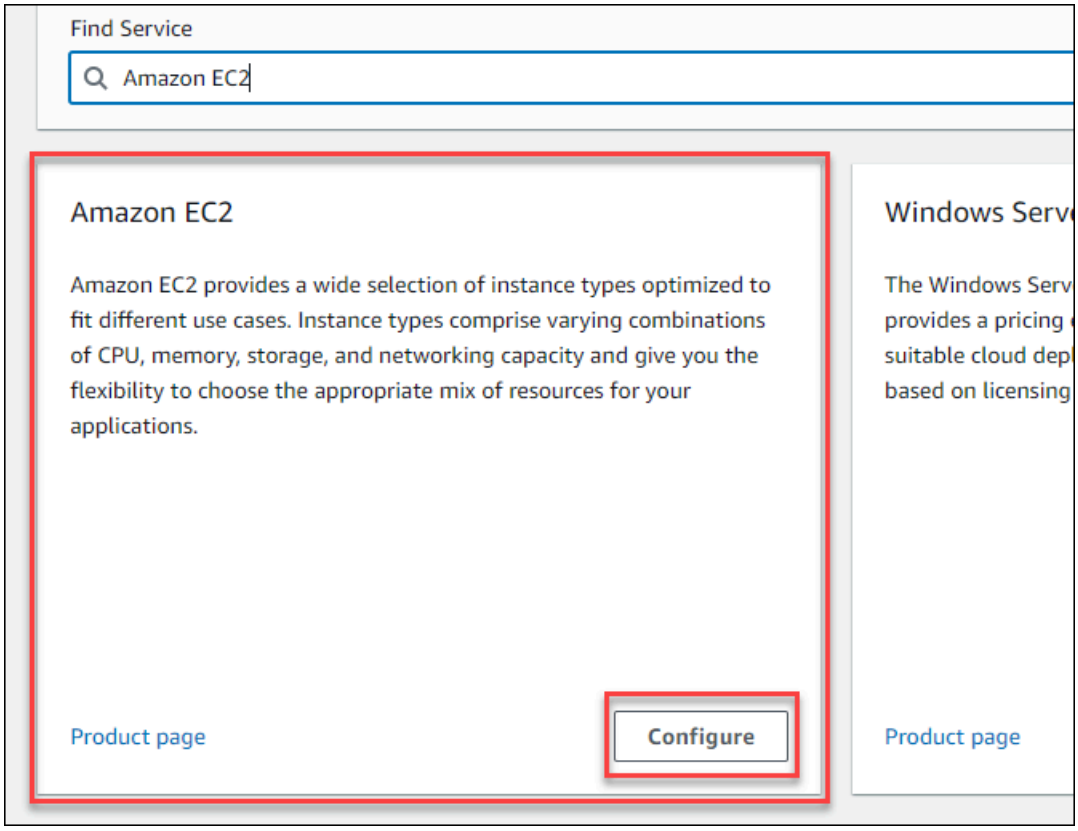
3. [サービスの追加] ページで、必要なサービスを見つけます。次いで、[Configure (設定)] を選択します。詳細については、「サービスを構成する」を参照してください。
4. 見積りサービスの説明を追加します。
5. [Region (リージョン)] を選択します。
6. サービスの仕様を入力します。
7. [サービスを保存して追加する] を選択します。
8. 作成した見積りを表示するには、[概要の表示] を選択します。

サービスを構成する

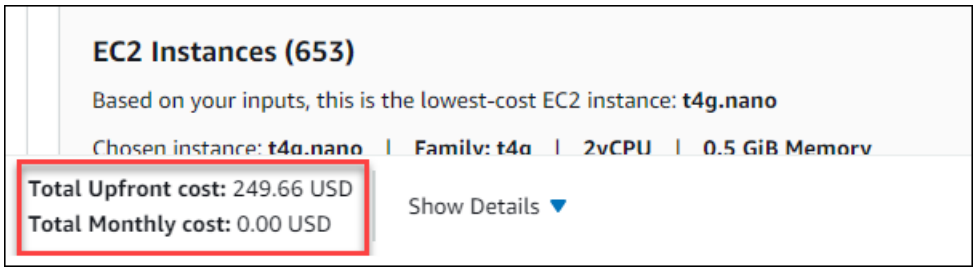
このセクションでは、見積りを作成するサービスを構成する方法を説明します。この例では、Amazon EC2 の [Quick estimate] (クイック見積り) オプションを使用して Amazon EC2 を追加します。

見積り用にサービスを構成する方法

1. https://calculator.aws/#/addService で [Add service] (サービスを追加) のページを開きます。
2. 検索バーに **`Amazon EC2`** と入力して [Configure] (構成) を選択します。



3. [Description] (説明) の欄に見積りの説明を入力します。
4. [Region] (リージョン) を選択します。
5. EC2 仕様セクションで、ユースケースの要件に基づいてパラメータを更新します。
6. この段階では、前払いコストと月額コストの合計を表示できます。これらのコストは、選択した現在の EC2 パラメータに基づいています。



7. (オプション) [計算を表示] を選択して、見積りの損益分岐点分析と使用率の概要を表示します。
8. (オプション) [Amazon EBS] セクションで、Amazon EC2 インスタンスごとにストレージを選択し、ストレージ量を入力します。

> **Note**
>
> Amazon EBS ボリュームを追加しない場合、**0** を入力します。

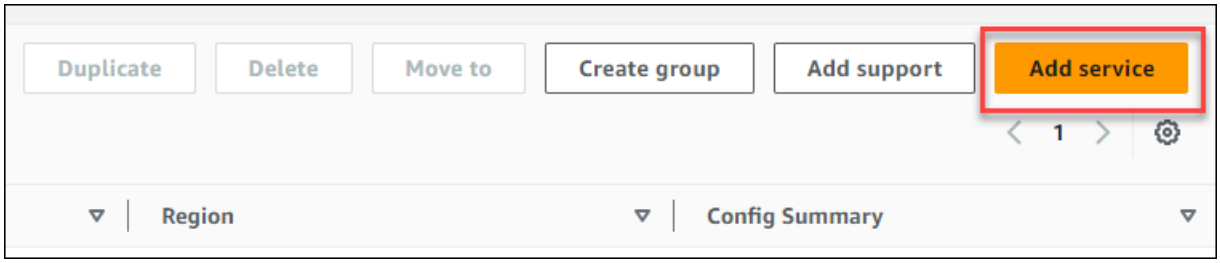
9. [サービスを保存して追加する] を選択します。

サービスを追加する

ユースケースの要件に基づいて、見積りにさらにサービスを追加できます。特定サービスの見積りを表示するプロセス例とチュートリアルについては、「サービスの見積り例」をご参照ください。

見積りにサービスをさらに追加する方法

1. https://calculator.aws/#/estimate で [My estimate] (見積り) ページを開きます。
2. [Add Service] (サービス追加) を選択。



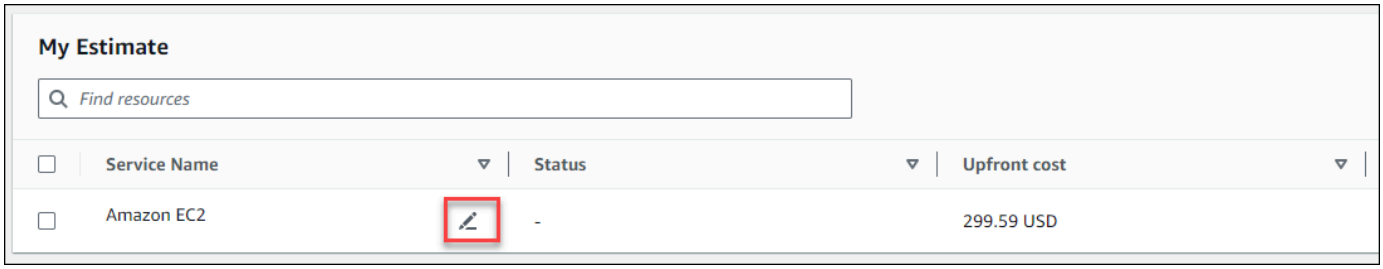
3. サービスを検索して [Configure] (構成) を選択します。
4. サービスパラメータを入力します。次に、[サービスを保存して追加する] を選択します。
5. 必要に応じてこのプロセスを繰り返します。

入力を編集する

見積りに追加されたサービスの入力を編集することができます。

サービスの入力を編集する

1. https://calculator.aws/#/estimate で [My Estimate] ページを開きます。
2. [マイ見積り] セクションで、更新するサービスを見つけます。次に、[編集] アイコンを選択します。



3. サービス入力を編集します。次に、[保存] を選択して [マイ見積り] ページに戻ります。

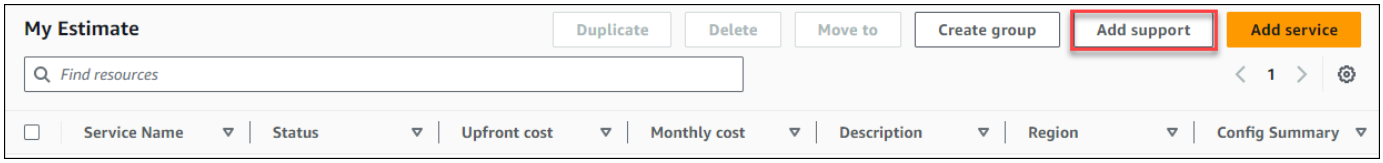
見積りへの サポート コストの追加

を使用して、見積りに サポート コストを追加できます AWS 料金見積りツール。ご希望のサポートプランを直接選択するか、使用するニーズに合った推奨事項を完了することができます。計算ツール サポート 内の はいつでも変更できます。

手順

見積りに サポート コストを追加するには

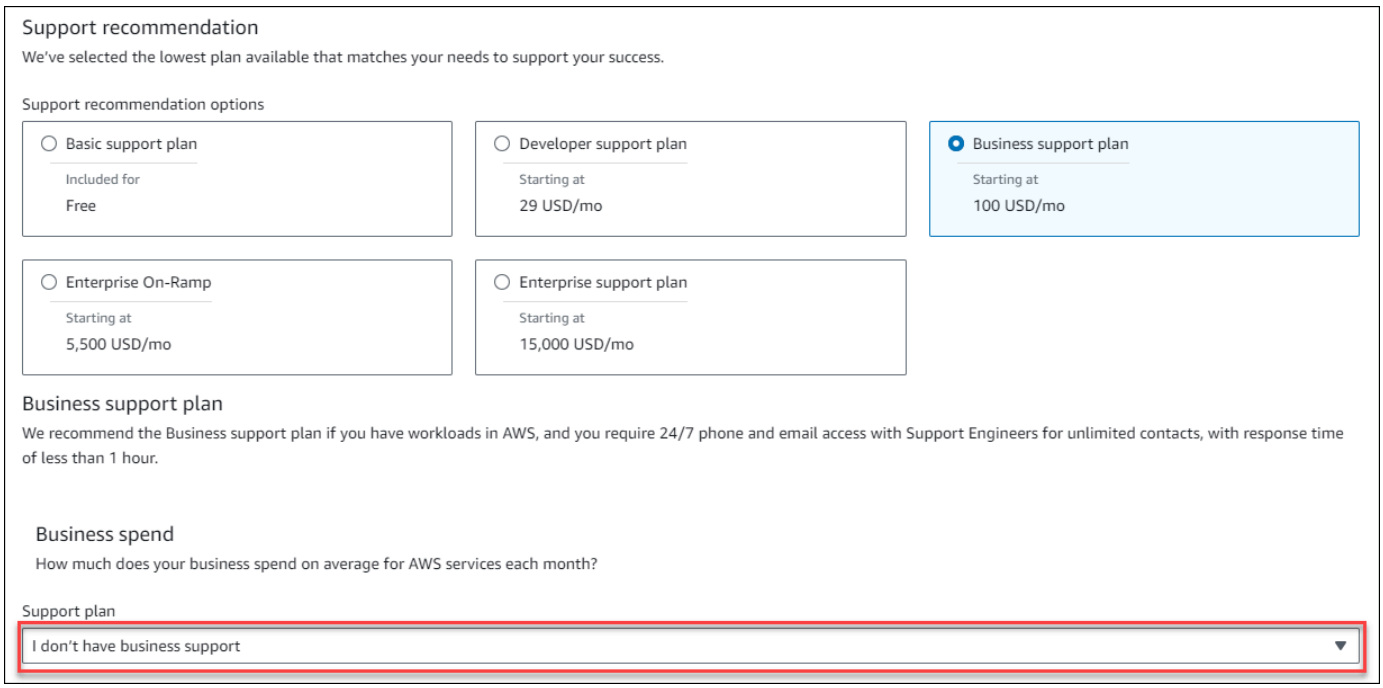
1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. 見積りにサービスを追加します。詳細については、見積りの作成を参照してください。
4. [マイ見積り] ページで、[サポートの追加] を選択します。



5. (任意) サポートプランの見積りの説明を入力します。
6. (オプション) 表示されるドロップダウンリストから [強化された技術サポート] レベルを選択します。
7. (オプション) 表示されるドロップダウンリストから [重大度が高い場合の応答] 時間を選択します。

> **Note**
>
> [サポートのレコメンデーション] オプションの一部が使用できない場合があります。これは、選択した [強化された技術サポート] レベルと [重大度が高い場合の応答] 時間によって異なります。

8. [サポートのレコメンデーション] オプションを選択します。
9. ビジネスサポートプランまたはエンタープライズサポートプランを選択した場合は、ビジネスまたはエンタープライズが毎月 AWS のサービスに平均して費やす金額の範囲を選択します。



10. (任意) 見積りの計算を確認する場合、[Show calculations] (計算を表示) を選択します。
11. [Add to my estimate (見積りへの追加)] を選択します。
12. [ビジネスサポートプラン] または [エンタープライズサポートプラン] を選択した場合は、表示されるプロンプトで [確認] を選択します。次に、[見積りへの追加] を選択します。

見積りの管理

このセクションでは、コスト見積もりを効果的に管理および整理 AWS 料金見積りツール するための の機能の概要を説明します。

グループを作成して、コストセンター、製品アーキテクチャ、 AWS リージョンなどのさまざまな基準に基づいて見積りを分類できます。グループを使用して見積りをside-by-side比較し、 AWS デプロイについて情報に基づいた意思決定を行うことができます。

また、作成した見積りごとに一意のパブリックリンクを生成することで、見積りを保存することもできます。さらに、見積りを PDF または CSV ファイルとしてエクスポートできます。

以下のセクションでは、各機能のステップバイステップのプロセスについて説明します。

トピック

- グループを使用して見積りの整理
- 見積りの共有
- 見積りのエクスポート
- Pricing Calculator への Simple Monthly Calculator の見積りへの移行

グループを使用して見積りの整理

グループを定義することで、 AWS 見積りを整理できます。グループは、各コストセンターの見積りを提供するなど、会社の組織構造を反映できます。

グループは、製品スタックや製品アーキテクチャなど、他の編成方法を反映できます。例えば、AWS セットアップをさまざまな方法で構築する場合、セットアップのバリエーションごとに異なるグループを使用して見積りを比較できます。1 つの見積りを生成して、ウェブサイトの実行コストを表示できます。次に、別の見積りを生成して、機械学習プロセスの実行コストを確認できます。その後、 AWS 使用量の合計見積りを表示できます。

グループは AWS リージョンを比較するうえでも役立ちます。リージョンごとにグループを作成すると、2 つの異なる場所でサーバーを運営するコストを比較できます。例えば、1 つのグループで米国東部 (バージニア北部) の見積りを作成し、別のグループでアジアパシフィック (ソウル) の見積りを生成できます。次に、特定のユースケースおよび予算に応じて 2 つの見積り金額を比較します。

トピック

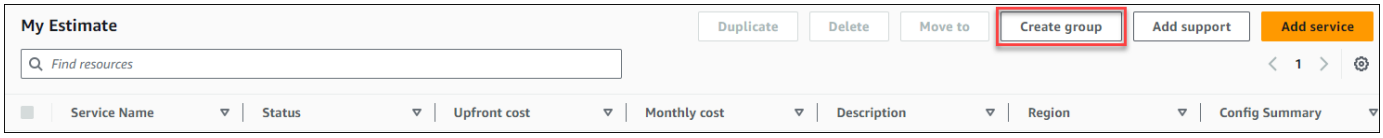
- グループの作成
- グループの移動

グループの作成

グループを使用してサービスをまとめて整理します。各グループには 1 つ以上のサービスを追加できます。また、グループを使用してさまざまな方法で見積りを整理することもできます。例えば、コストセンター、サービススタック、製品アーキテクチャ、クライアント別で見積りを整理できます。

グループを見積りに追加するには

1. https://calculator.aws/#/estimate で [My estimate] (見積り) ページを開きます。
2. [グループの作成] を選択してください。



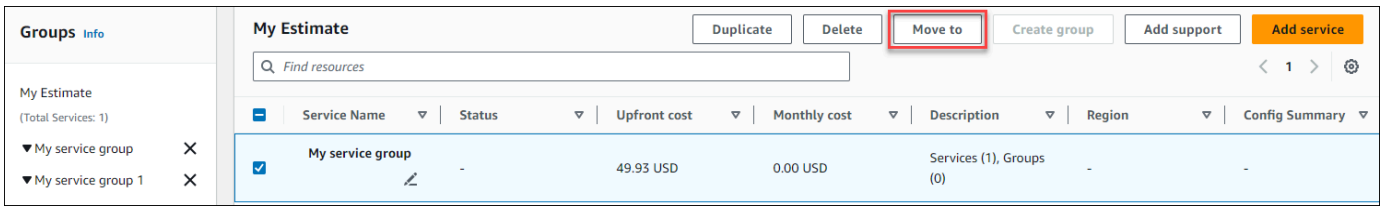
3. 表示されるプロンプトで、グループ名を入力します。
4. [グループの作成] を選択してください。

グループの移動

グループやサービスを移動して見積りを整理できます。すべてのサブグループおよびサービスは、アクションの一部として移動されます。このプロセスで単一または複数グループを移動できます。

グループを移動する方法

1. https://calculator.aws/#/estimate で [My estimate] (見積り) ページを開きます。
2. 移動するグループとサービスのチェックボックスを選択します。
3. [Move to] (移動先) を選択します。



4. ドロップダウンから移動先グループを選択します。
5. [Move] (移動) を選択します。

> **Note**
>
> 選択したサポートプランの見積もりはグループに固有ではないため、 サポート 計算ツールをグループに移動することはできません。

見積りの共有

作成する見積りごとに固有のパブリックリンクを作成できます。このリンクを使用してステークホルダーと見積りを共有したり、後で見積りにアクセスしたりできます。見積りは AWS パブリックサーバーに保存されます。

見積りに変更を加えると、再度保存する必要があります。不要な上書きを防ぐために、同じリンクに自動的に保存 AWS 料金見積りツール されることはありません。または、共有リンクを一般的なユースケースのテンプレートとして使用し、複雑な見積りを作成する開始点として使用できます。

> **Note**
>
> - 見積りリンクがないと見積りにアクセスできないため、必ず見積りリンクを保存してください。
> - PDF または JSON ファイルとしてエクスポートされた見積りには、見積もりの共有リンクが記載されています。
> - 見積りリンクは、更新の際に自動的に保存されません。見積り内容を変更した場合は、新しい見積りリンクを生成してください。
> - 2023 年 5 月 31 日以降に作成された見積もりリンクは 1 年間有効です。この日付より前に作成された見積もりリンクは 3 年間有効です。

トピック

- 見積りリンクの共有
- 保存された見積りの更新

見積りリンクの共有

パブリック共有リンクを生成するには

1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. 1 つ以上のサービスを追加して見積りを作成します。詳細については、「見積りの作成」を参照してください。
3. https://calculator.aws/#/estimate で [マイ見積り] ページを開きます。
4. [共有] を選択します。
5. [Public server acknowledgment] (パブリックサーバーに関する確認事項) を読んで [Agree and Continue] (同意して継続) を選択します。

   (任意) 次回の閲覧のため、[Don't show me this again] (二度と表示しない) を選択できます。
6. [Copy public link] (パブリックリンクをコピー) を選択して生成されたリンクをコピーします。

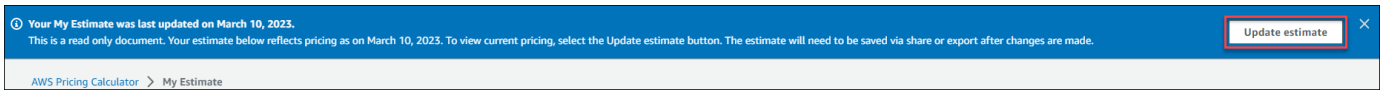
見積りの簡単な説明を表記して共有リンクを文書化することをお勧めします。

保存された見積りの更新

以前に保存した見積もりの合計コストは、時間の経過とともに古くなる可能性があります。これは AWS 料金見積りツール 内の価格の変更またはサービスの更新によるものです。最新の費用を反映するように見積もりを更新して最新の状態に維持することができます。

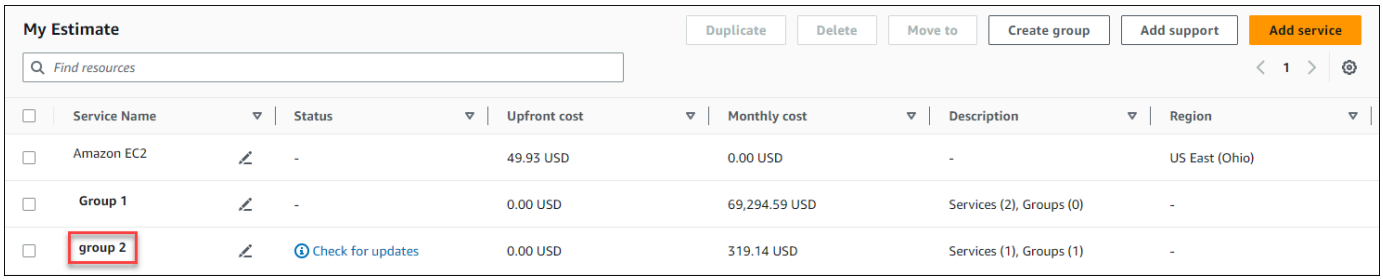
以前に保存した見積りを更新するには

1. 保存済みの見積もりを AWS 料金見積りツール で開きます。そのためには、一意のリンクをブラウザのナビゲーションバーにコピーします。
2. 見積もりの最終更新日を示すバナーで、[見積もりを更新] を選択します。



3. [マイ見積り] セクションで、更新の [ステータス] 列を確認します。4 種類のステータス値があります。
   - 必須入力 — 見積もり内のサービスで更新が行われました。現在の見積もりは古くなったため、対応が必要です。[必須入力] ステータスのサービスがある場合、ステップ 4 に進みます。

- コスト更新済み — 見積りに影響を及ぼすサービスの価格設定モデルまたはコスト計算の変更が発生しました。料金計算ツールでは、これらの変更に応じて見積もりが自動的に更新されるため、必要なアクションはありません。
- 読み取り専用 — 見積もり内のサービスで更新が行われました。ただし、そのサービス見積もりを直接更新することはサポートされていません。最新のサービス変更を含む最新の見積もりを表示するには、サービス見積もりを再作成する必要があります。新しい見積りの作成方法については、「見積りのリンクの作成」を参照してください。
- 更新の確認 — グループ内のサービスに対して更新が行われました。現在の見積もりは古くなったため、対応が必要です。[更新を確認] ステータスのグループがある場合は、グループ名を選択すると、影響を受けるサービスが表示されます。ステップ 4 に進みます。



4. [必須入力] ステータスのサービスがある場合、または特定のサービスを変更する場合は、サービス名の横にある編集アイコンを選択します。
5. サービスを変更します。次に、[更新] を選択します。
6. [共有] を選択して変更を保存します。

> **Note**
>
> - 見積りを保存すると、新しい見積りリンクが生成されます。更新は元の共有リンクには保存されません。
> - のサービスの更新の詳細については AWS 料金見積りツール、「サービスの更新」を参照してください。

見積りのエクスポート

見積りは PDF AWS 料金見積りツール ファイルまたは CSV ファイルとしてエクスポートできます。これにより、 が見積りの作成 AWS 料金見積りツール に使用したパラメータを保存して、 コンソールで AWS サービスを設定した場合に再確認することができます。

> **Note**
>
> PDF には、見積もりへの共有リンクが記載されています。

AWS 料金見積りツール 見積りをエクスポートするには

1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. 1 つ以上のサービスを追加して見積りを作成します。詳細については、「見積りの作成」を参照してください。
3. https://calculator.aws/#/estimate で [My estimate] (見積り) ページを開きます
4. [Export] (エクスポート) ドロップダウンを使用して CSV または PDF を選択します。
5. 同意内容を読んで [OK] を選択します。
6. ダイアログボックスで、[Save File (ファイルの保存)]、[OK] の順に選択します。

Pricing Calculator への Simple Monthly Calculator の見積りへの移行

> **Important**
>
> 簡易見積りツール (SMC) はサポートされなくなりました。このセクションで説明されているステップ AWS 料金見積りツール を使用して、保存した SMC 見積りを に変換できます。この変換機能の提供は、2023 年 12 月 31 日午後 11 時 59 分 (太平洋標準時) に終了します。既存の SMC 見積りがある場合は、できるだけ早く変換機能 AWS 料金見積りツール を使用して に移行することをお勧めします。保存済みの SMC の見積もりにアクセスする必要がない場合、必要なアクションはありません。

SMC 見積りを と互換性のある見積りに変換するには AWS 料金見積りツール

1. 独自の SMC 見積もりリンクをコピーしてブラウザに貼り付けます。このリンクは、見積もり変換の状況を確認できる AWS 料金見積りツール ウェブサイトへリダイレクトします。
2. レコードの AWS 料金見積りツール 移行された見積りリンクを生成します。これを行うには、[共有] を選択します。

> **Note**
>
> SMC 見積りの生成に失敗した場合は AWS 料金見積りツール、エラーを選択して変換に失敗した理由を確認します。

Simple Monthly Calculator と AWS 料金見積りツール 見積りの違い

SMC の見積りと AWS 料金見積りツール 見積りの合計コストが一致しない理由はいくつかあります。

- AWS 無料利用枠の料金: AWS 料金見積りツール は、コスト計算で無料利用枠の料金を考慮しません。
- 期間: は、コスト AWS 料金見積りツール 計算に 1 か月に 730 時間を使用して計算します。これは、1 年間 365 日 x 1 日 24 時間、1 年 12 か月間の計算に基づいています。

でサポートされていないサービスと機能 AWS 料金見積りツール

Simple Monthly Calculator の見積りは以前に保存され、正常に移行されない場合があります AWS 料金見積りツール。これは、 AWS 料金見積りツール 現時点では一部のサービスや機能が でサポートされていないためです。次の表は、現在サポートされていない の概要を示しています AWS 料金見積りツール。

サービス名	でサポートされていない料金設定機能 AWS 料金見積りツール
Amazon EC2	追加の T2/T3/T4g　無制限 vCPU 使用時間 Amazon EC2 のレガシーインスタンスとインスタンスファミリー

サービス名	でサポートされていない料金設定機能 AWS 料金見積りツール
Amazon S3	Transfer acceleration Glacier セレクト クロスリージョンレプリケーション
Amazon CloudFront	HTTP リクエスト 無効化リクエスト SSL 証明書
Amazon RDS	RDS Aurora Global データベース
Amazon DynamoDB	グローバルテーブル
Amazon CloudWatch	アーカイブ済みログ メトリクスストリーム
Amazon Redshift	旧世代のノードタイプ
Amazon S3 Glacier	Glacier セレクト
Amazon CloudSearch	サービス全体
Amazon SimpleDB	サービス全体
AWS Key Management Service	カスタマー管理キー (CMK) - マルチリージョン

> **Note**
>
> 見積りを変更する場合は、新しい AWS 料金見積りツール 共有可能なリンクを生成する必要があります。詳細については、「見積りの共有」を参照してください。

サービスの見積り例

このセクションでは、 AWS 料金見積りツール を使用して特定のサービスの見積りを生成する方法を示す例とチュートリアルを示します。

トピック

- Amazon EC2 の見積りの作成
- Windows Servers and SQL Servers on EC2 の見積りの生成
- Windows Servers and SQL Servers on EC2 Dedicated Hosts の見積りの生成
- AWS Modernization Calculator を使用した Microsoft の見積りの生成

Amazon EC2 の見積りの作成

を使用して AWS 料金見積りツール 、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスのコストを見積もることができます。このセクションでは、Amazon EC2 見積りを生成する手順と、Amazon EC2 見積りに選択できる仕様、支払いオプション、アドオンについて説明します。

トピック

- 手順
- Amazon EC2 インスタンス仕様
- 支払いオプション
- Amazon Elastic Block Store (EBS)
- 詳細なモニタリングコスト
- データ転送コスト
- Elastic IP コスト
- 追加料金

手順

Amazon EC2 の見積りを生成するには

1. https://calculator.aws/#/createCalculator/ec2-enhancement で Amazon EC2 見積りページを開きます。

2. Amazon EC2 の見積りについて説明を入力します。
3. ドロップダウンから [Location type] (ロケーションタイプ) と [Region] (地域) を選択します。
4. (オプション) 見積りに必要なパラメータを選択します。
   - Amazon EC2 インスタンス仕様
   - 支払いオプション
   - Amazon Elastic Block Store (EBS)
   - 詳細なモニタリングコスト
   - データ転送コスト
   - Elastic IP コスト
   - 追加料金
5. [サービスを保存して追加する] を選択します。

計算ツールビューはデフォルト値が事前にロードされているため、情報を一切追加または変更することなく、初期の見積りを見ることができます。以下のパラメータの値をどれでも変更できます。あるいは、問題なければデフォルトのままにすることもできます。

Amazon EC2 インスタンス見積りパスには、以下のセクションとパラメータがあります。

Amazon EC2 インスタンス仕様

これらの設定により、 が見積りの生成 AWS 料金見積りツール に使用する Amazon EC2 インスタンスが決まります。

テナンシーを選択する

テナンシーのデフォルト値は `Shared Instances` です。

オペレーティングシステムを選択

Amazon EC2 instance. のオペレーティングシステムは、選択した OS に一致する Amazon マシンイメージ (AMIs) を使用して見積り AWS 料金見積りツール を生成します。ニーズに最も合致したオペレーティングシステム (OS) を選択します。OS のデフォルト値は Linux です。

インスタンスタイプを選択

AWS 料金見積りツール は、使用可能なすべてのインスタンスタイプを一覧表示します。検索バーでインスタンスをフィルターします。

インスタンスタイプを名前で検索

ご希望のインスタンスファミリーまたはインスタンスサイズがわかっている場合、インスタンス名を検索すると効率的です。たとえば、`t2.medium` インスタンスを検索できます。

最小要件に基づいてインスタンスタイプを検索する

最小要件は、希望するインスタンスの仕様がわかっている場合、最も役立ちます。たとえば、vCPU が 4 つ以上で、メモリが 16 GB 以上のインスタンスを検索して、ネットワークのパフォーマンスを確認することができます。

使用可能な Amazon EC2 インスタンスファミリーについては、「Amazon EC2 のインスタンスタイプ」を参照してください。

EC2 インスタンスの数

デフォルト値は 1 です。必要になる最小数であるため、 はこのデフォルト値 AWS 料金見積りツール を使用します。

ワークロード

ワークロードは、Amazon EC2 の使用状況と一致する使用パターンです。使用状況に最も近いワークロードを選択することにより、オンデマンドおよび未使用 RI の時間数の購入を減らします。これは、RI およびオンデマンドインスタンスの最適な組み合わせによって使用量をカバーすることで実現します。見積りには、複数のワークロードを定義できます。

一定の使用量

このワークロードは、一定かつ予測可能な負荷を持つユースケースに適しています。これには、ウェブサイトへのトラフィック記録したり、プロセスをバックグラウンドで実行したりするユースケースが含まれます。

日次スパイク

このワークロードは、1 日 1 回ピークが発生する使用パターンに最適です。これは例えば、真夜に複数のジョブを実行する必要がある場合、または朝のニューススパイクが発生するシナリオに適しています。

週次スパイク

このワークロードは、週に 1 回ピークが発生するパターンに最適です。これは、週に一回投稿されるブログや、毎週放映されるテレビ番組などのシナリオに適しています。

月次スパイク

このワークロードは、毎月の請求、給与支払い、報告など、月 1 回のスパイクがあるトラフィックに最適です。

支払いオプション

これらの設定により、 が見積りの生成 AWS 料金見積りツール に使用する料金戦略が決まります。

料金モデル

この料金モデルは、従量料金制のインスタンスまたは先行予約可能なインスタンスのうち、どちらを検索しているか決定します。インスタンスの予約は、インスタンスの使用料金とは異なります。

予約条件

リザーブドインスタンス (RI) を予約すると、契約期間に応じた予約を購入します。契約期間は 1 年または 3 年を選択できます。

デフォルト値は 1 年です。このデフォルト値は、試すための最もコストの低いオプションであるため、 はこのデフォルト値 AWS 料金見積りツール を使用します AWS。

支払いオプション

RI の場合、支払いオプションは予約の支払い時期を決定します。予約の全額を前払いできます。高額の一括払いとなりますが、毎月の支払いは不要になります。RI は、一部前払いと月払いの組み合わせで支払えます。これは前払いコストを小さく抑えることができますが、毎月のコストが発生します。前払いが発生しない支払い方法も利用できます。これにより、月払いのみとなります。全額前払いでは最高の割引率を利用できます。一部前払いと前払いなしでは、料金を長期間に分散できます。

支払いオプションのデフォルト値は ですNo Upfront。 は、最も安価な起動価格を提供するため、このデフォルト値 AWS 料金見積りツール を使用します。

EC2 インスタンスの予想使用量

Amazon EC2 インスタンスの予想使用量を入力します。この機能は、オンデマンド料金戦略を選択した場合のみ適用されます。

スポット

計算ツールは、選択したインスタンスの過去の平均割引率を表示します。見積りを作成するための割引率を入力することができます。

Amazon Elastic Block Store (EBS)

これらの設定により、 が見積りの生成 AWS 料金見積りツール に使用する Amazon EBS 設定が決まります。Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) は、Amazon EC2 インスタンスに接続できるストレージの一種です。これでインスタンスのバックアップ、ブートボリュームの作成、インスタンスにデータベースの実行などの作業を行えます。Amazon EBS の詳しい情報については、Amazon Elastic Block Store のドキュメントをご参照ください。

ストレージボリューム

ストレージボリュームは、Amazon EBS がインスタンスに割り当てるストレージの種類を決定します。タイプごとに機能が異なります。たとえば、ブートボリュームやバックアップなど、特定のユースケースに応じて、より良い I/O と高速計算、またはより低速で安価なオプションを選択できます。

ストレージ量

ストレージ容量は、Amazon EBS ボリュームのストレージ容量を決定します。

デフォルト値は `30 GB` です。Amazon EC2 インスタンスに Amazon EBS ボリュームをアタッチしない場合、`0 GB` を入力できます。https://calculator.aws/#/createCalculator/EBS で見積りにスタンドアロンの Amazon EBS 計算ツールを追加・設定することにより、追加の Amazon EBS ボリュームを見積もることができます。

詳細なモニタリングコスト

デフォルトでは、基本的なモニタリングのためにインスタンスがオンになっています。オプションで詳細なモニタリングをオンにすることができます。詳細モニタリングをオンにすると、Amazon EC2 コンソールは、インスタンスの 1 分間のモニタリンググラフを表示します。詳細については、「詳細モニタリング」を参照してください。

データ転送コスト

Amazon EC2 との間でデータを転送することで追加の料金が発生する場合があります。毎月のデータのアップロード/ダウンロード量を推定できる場合は、これらのコストを見積りに追加できます。詳細については、「オンデマンド料金」ページの「データ転送」セクションを参照してください。

Elastic IP コスト

実行中のインスタンスに関連付けられた Elastic IP (EIP) アドレスを無料で 1 つ取得できます。そのインスタンスに追加の EIP を関連付けると、そのインスタンスに関連付けられている追加の EIP ごとに、時間単位で課金されます。EIP が実行中のインスタンスに関連付けられていない場合、または EIP が停止中のインスタンスまたは接続されていないネットワークインターフェイスに関連付けられている場合は、1 時間ごとの少額課金が適用されます。詳細については、「オンデマンド料金」ページの「Elastic IP アドレス」セクションを参照してください。

追加料金

Amazon EC2 の価格見積りにカスタムコストを追加することができます。これを使用して、見積に含めるプレースホルダコストを追加できます。

Windows Servers and SQL Servers on EC2 の見積りの生成

のワークロード計算ツールを使用して AWS 料金見積りツール 、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Microsoft Windows Server と SQL Server の AWS テナンシー資格についてガイドできます。ワークロード計算ツールを使用して、最小限の情報とパラメータを使用して AWS コストを見積もることができます。各パラメータの詳細がわからない場合でも、見積りを生成できます。これは、各パラメータにデフォルト設定が含まれているためです。

AWS クラウドで Microsoft ソフトウェアライセンスを使用するオプションについては、「 での Microsoft ライセンス AWS」を参照してください。

トピック

- 手順
- ライセンシングとテナンシーの推奨事項
- マシン仕様の設定
- 料金戦略
- コストの詳細
- チュートリアル: Windows Servers and SQL Servers on EC2 の見積りの生成

手順

Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 の見積りを生成するには

1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 で 、[設定] を選択します。
4. [Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 の設定] ページで、カスタマイズした設定を選択します。
   - テナンシーの選択肢の詳細については、「ライセンシングとテナンシーの推奨事項」を参照してください。
   - マシン仕様の選択方法については、「マシン仕様の設定」を参照してください。
   - 料金戦略の選択方法については、「料金戦略」を参照してください。
   - 費用詳細の選択方法については、「コストの詳細」を参照してください 。
5. [Add to my estimate (見積りへの追加)] を選択します。

Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 の見積りを作成する、ステップバイステップの例については、「チュートリアル: Windows Servers and SQL Servers on EC2 の見積りの生成」を参照してください。

ライセンシングとテナンシーの推奨事項

Windows Server と SQL Server の AWS ライセンス入力の選択を通じて、ワークロードのライセンスオプションとテナンシーオプションを決定できます。ライセンスオプションには、ライセンス込みオファリングで AWS 提供されるライセンスと、最適なコスト削減のための Bring Your Own License (BYOL) オファリングで提供される既存のライセンスが含まれます。共有テナンシーや専有ホストなど、最適なクラウドテナンシーを特定できます。

次の表は、 でサポートされている AWS ライセンスとテナンシーのシナリオを示しています AWS 料金見積りツール。

Windows Server	SQL Server	AWS テナンシー
ライセンス込み	ライセンス込み	共有テナンシー
ライセンス込み	BYOL	共有テナンシーまたは専有ホスト

Windows Server	SQL Server	AWS テナンシー
BYOL	BYOL	Dedicated Hosts
BYOL	ライセンス込み	サポートされていません

ライセンスとテナンシーの変数には、次のものが含まれます。

- Windows Server ライセンスの購入が 2019 年 10 月 1 日より前または後か
- SQL Server ライセンスの購入が 2019 年 10 月 1 日より前または後か
- 自分のライセンスを持ち込む (BYOL) か、または SQL Server ライセンス用の有効なソフトウェアアシュアランスを所有しているか

Windows Server または SQL Server の優先設定を選択しない場合、計算ツールはコスト削減のために既存ライセンスを使用しないライセンス込みシナリオを想定することになります。

マシン仕様の設定

選択したマシン仕様に基づいて、 AWS 料金見積りツール を使用してコストの見積りを生成する Amazon EC2 インスタンスを推奨します。推奨インスタンスとは異なるインスタンスを選択したり、単一のワークロードに対して複数のマシン仕様を追加することもできます。

このセクションでは、「マシン仕様の構成」セクションで説明されている用語を定義します。

マシンの説明

マシンの説明。これは通常、ホスト名識別子です。不明な場合は、このマシンで実行されている一意のソフトウェアコンポーネントを指定できます。例えば、`WebApp DB1`、`Webserver 1` などです。

オペレーティングシステム

テナンシーの資格に応じて、ライセンスオプション付きのオペレーティングシステムを選択できます。デフォルト値は `Windows` です。

SQL Server エディション

テナンシー資格に応じて、ライセンス付きの SQL Server を選択できます。デフォルト値は `SQL Standard` です。

仕様ごとのストレージボリューム

このセクションでは、ストレージのニーズを指定できます。ストレージの前払いが必要かどうかわからない場合は、 [削除] を使ってそれを見積りから削除できます 。このセクションはオプションです。

インスタンスには、ストレージボリュームを関連付けないか、1 個以上のストレージボリュームを関連付けることができます。[新しいボリューム] を選択して、インスタンスに複数のボリュームを追加します。

ボリュームごとに異なるボリュームタイプを使用できます。計算ツールでは、IOPS やスループットなどのオプションの入力に基づいて、適切な Amazon EBS ストレージタイプが推奨されます。

ストレージ量

ストレージ容量のニーズを指定できます。デフォルト値は 1000 GB です。ストレージ量だけを指定した場合、既定の推奨 Amazon EBS ストレージタイプは `General Purpose SSD (gp3)` です。

IOPS

IOPS (入力/出力操作/秒) とは、連続していないストレージのロケーションからの読み込みおよび書き込みの最大数を表す標準的な測定単位です。IOPS は、ソリッドステートドライブ (SSD)、ハードディスクドライブ (HDD)、ストレージエリアネットワークのパフォーマンスを表します。

I/O 集約型ワークロードIOPs を指定できます。 はこの値 AWS を使用して `io2` Amazon EBS ストレージタイプを推奨する可能性があります。

`io2` は最大 500 IOPS/GB、最大 64,000 IOPS までの一貫したベースラインパフォーマンスを提供します。ボリュームあたり最大 1,000 MB/秒のスループットを実現します。

スループット

スループットとは、ある期間にシステムが処理できる情報の単位数を測定したものです。これは、1 秒あたりの I/O 操作数に相当しますが、通常 1 秒あたりのバイト数で測定されます。

この入力は、高いスループットのワークロードに対して指定できます。

`st1`はハードディスクドライブによってバックアップされます。大規模なデータセットと I/O サイズを持つ、頻繁にアクセスされ、高スループットのワークロードに最適です。例としては、MapReduce、Kafka、およびログの処理が含まれます。

EC2 インスタンスタイプ

EC2 インスタンスタイプの推奨事項を取得する

これがデフォルトの選択肢です。EC2 インスタンスの推奨事項を生成するために vCPU とメモリ入力の数を選択します。x86 アーキテクチャインスタンスだけが考慮されてます。デフォルトの vCPU 値は 4 で、メモリは 16 GB です。

EC2 インスタンスタイプの検索

このオプションを使用して、推奨インスタンスとは異なるインスタンスタイプを選択できます。

インスタンスを見つけるには、最小要件または名前で検索できます。最小要件は、希望するインスタンスの仕様がわかっている場合に、最も役立ちます。インスタンス名は、インスタンスファミリーまたは希望するインスタンスのサイズがわかっている場合に便利です。たとえば、4 つの vCPU と 16 GB のメモリを最小要件とするインスタンスを検索したり、m5 インスタンスを検索したりできます。

インスタンスカテゴリなどのフィルタを使用して、インスタンスを検索することもできます 。データベースワークロードには、メモリ最適化インスタンスをお勧めします。インスタンスカテゴリフィルタを使用して、すばやく見つけることができます。

CPUの最適化

フルサイズのインスタンスと同じメモリ、ストレージ、および帯域幅を使用しながら、vCPU の数を自由に指定できます。デフォルト値は、マシン仕様で指定された vCPU 入力と同じです。

例えば x1e.4xlarge インスタンスは、現在 16 個の vCPU をデフォルトで提供しています。しかしながら x1e.4xlarge では、最適な vCPU の数を、4、5、6、7、8、9、10、12、14 個から指定できます。つまり、BYOL のお客様は、vCPU ベースのライセンスコストを最適化できます。CPU 最適化インスタンスの価格は、CPU 用に最適化されていないインスタンスと同じ価格です。

数量

デフォルト値は 1 です。最小値の入力が必要です。

SQL パッシブノード

パッシブ SQL Server ノードは、SQL Server データをクライアントに提供したり、アクティブな SQL Server ワークロードを実行したりするノードではありません。このチェックボックスをオンにし、ソフトウェアアシュアランス AWS を使用して SQL Server 2014 以降のバージョンを に持ち込む場合、パッシブノードで SQL Server をライセンスする必要はありません。

料金戦略

料金戦略セクションの選択により、見積りの生成 AWS 料金見積りツール に使用する料金戦略が決まります。

料金モデル

この料金モデルは、従量料金制のインスタンスまたは先行予約可能なインスタンスのうち、どちらを検索しているか決定します。リザーブドインスタンス (RI) の支払いオプションについては、「支払いオプション」を参照してください。

デフォルト値は `Standard Reserved Instances` です。これが最も一般的な Amazon EC2 購入であり、ほとんどのユースケースで最大の割引と柔軟性を提供されるためです。

予約期間

RI を予約して、契約期間に応じた予約を購入します。1 年または 3 年の期間を選択します。デフォルトでは、1 年に設定されます。コストを節約するためです。

支払いオプション

RI 予約の場合、支払いオプションは予約の支払い時期を決定します。

全額前払い – 予約全体に対して前払いを行うため、1 回の支払いになりますが、月ごとの定期的な支払いはありません。このオプションは最大の割引を提供します。

一部前払い – 月額お支払いで、一部前払い料金が少なく済みます。

前払いなし – 月単位でのお支払いです。

デフォルト値は、[No upfront] (前払いなし) です。これにより、スタートアップにおける料金を最小に抑えられます。

コストの詳細

コスト詳細のセクションでは、ワークロードの詳細を説明します。

EC2 インスタンスのコスト

EC2 インスタンスの内訳のまとめです。各行で一時停止して、インスタンスタイプ、オペレーティングシステム、SQL バージョン、vCPU、メモリ、数量、CPU の最適化、SQL パッシブノードなどの追加情報を表示します。

Amazon EBS のコスト

Amazon EBS の品目別コスト内訳

SQL による独自ライセンスのサマリー

BYOL SQL Server ライセンスのコア数を明確にするサマリーです。

チュートリアル: Windows Servers and SQL Servers on EC2 の見積りの生成

このチュートリアルでは、 の Amazon EC2 で Microsoft Windows Server と Microsoft SQL Server AWS 料金見積りツール を使用して見積りを生成する方法を示します。

手順

タスク

- ステップ 1: を選択する AWS リージョン
- ステップ 2: ライセンスとテナンシーの推奨事項を選択する
- ステップ 3: マシンの仕様を設定する
- ステップ 4: 料金戦略を選択する
- ステップ 5: 計算とコストの詳細を確認する
- ステップ 6: Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加する

ステップ 1: を選択する AWS リージョン

見積りに名前を付けてリージョンを選択するには

1. https://calculator.aws/#/createCalculator/EC2WinSQL の「Configure Windows Server and SQL Server on Amazon EC2」セクション AWS 料金見積りツール を開きます。
2. 次の見積りの説明を入力します: `Workload_SQL_BYOL`。
3. ロケーションタイプが [リージョン] に設定されていることを確認します。次に、`US East (Ohio)` リージョンを選択します。

> **Note**
> すべての AWS リソースは、選択したリージョンに基づいて料金が設定されます。

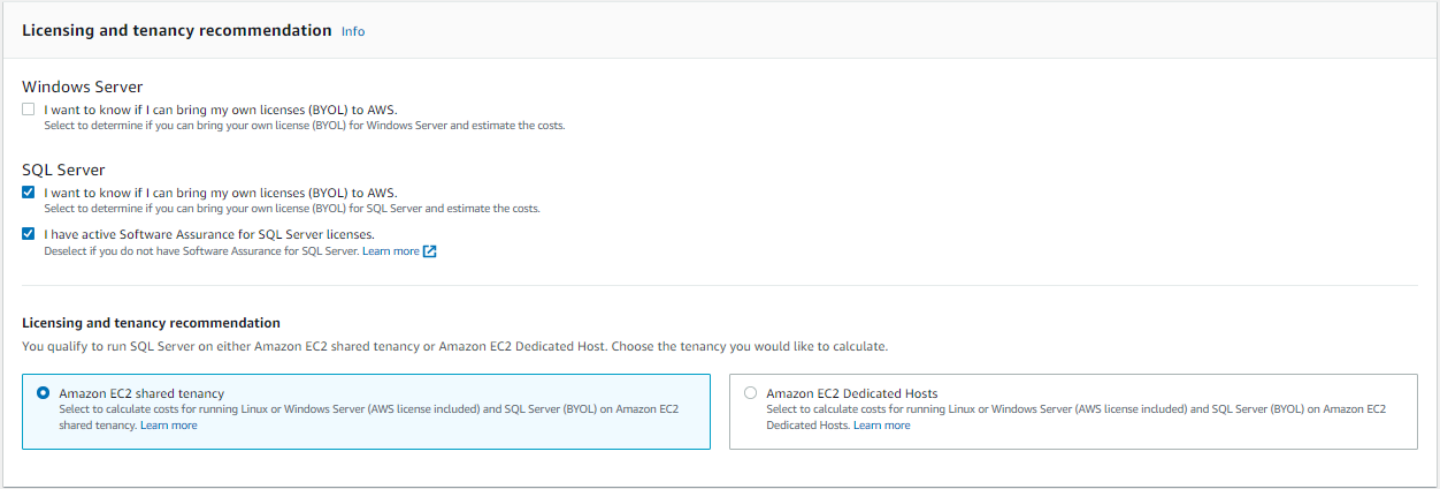
ステップ 2: ライセンスとテナンシーの推奨事項を選択する

このセクションでは、ライセンスの詳細を指定して、コストが最適化されたテナンシー資格を決定できます。でサポートされているライセンスとテナンシーの詳細については AWS 料金見積りツール、「」を参照してください[ライセンシングとテナンシーの推奨事項](#)。

この例のライセンスとテナンシーの推奨事項を確認するには

1. https://calculator.aws/#/createCalculator/EC2WinSQL の「Configure Windows Server and SQL Server on Amazon EC2」セクション AWS 料金見積りツール を開きます。
2. [ライセンスとテナンシーの推奨事項] セクションで、[Windows Server] チェックボックスをオフにします。
3. [SQL Server] で、両方のオプションを選択します。
4. 共有テナンシーの既定の選択はそのままにします。

   推奨されるテナンシーオプションは [Shared (共有済み)] と [Dedicated Hosts (専有ホスト)] です。Amazon EC2 専有ホスト計算ツールを使用して、専有ホストテナンシーを推定します。



ステップ 3: マシンの仕様を設定する

このステップでは、マシンの仕様を入力して AWS 料金見積りツール 見積りを設定できます。

次の表は、 AWS 料金見積りツールのいくつかの機能を示すワークロードシナリオの例を示しています。これらの値をこのチュートリアルで使用できます。

ホストの説明	vCPU	Ram	ストレージ (GB)	IOPS	ソフトウェア	vCPUの最適化	数量	パッシブノード数
サーバー 1	16	800	5000	60000	SQL Enterprise Edition	16	10	5
Server 2	16	64	3000	15000	SQL Standard Edition	16	8	4
サーバー 3	8	16	1,000		SQL Web Edition	8	10	0
サーバー 4	4	32	500		Windows	該当なし	8	該当なし

この例でマシン仕様を指定するには

1. https://calculator.aws/#/createCalculator/EC2WinSQL の「Configure Windows Server and SQL Server on Amazon EC2」セクション AWS 料金見積りツール を開きます。
2. [マシン仕様の設定] セクションで、[新しいマシン仕様の追加] ボタンを選択します。
3. [マシンの説明] で、名前を **`Server 1`** のままにします。
4. [Operating System (オペレーティングシステム)] で、[Windows Server] を選択します。
5. [SQL Server Edition (BYOL)] の場合は、[SQL Server Enterprise] を選択します。
6. [仕様ごとのストレージボリューム] で、ストレージ量 (GiB) を **`5000`** として、[IOPS] を **`60000`** として入力します。

   詳細については、「マシン仕様の詳細」を参照してください。
7. [Amazon EC2 インスタンスタイプ] で、[Amazon EC2 インスタンスタイプの推奨事項を取得する] を選択します。

   詳細については、「Amazon EC2 インスタンスタイプの詳細」を参照してください。

8. [Optimize vCPU (vCPU の最適化)] では、最適化された CPU の値を 16 のままにします。

   詳細については、「vCPUの最適化のメリット」を参照してください。

9. [Quantity (数量)] については、**10** を入力します。
10. パッシブインスタンスの数については、[5] を選択します。
11. マシン仕様タイプを追加するには、[Add machine (マシンの追加)] を選択します。

    このチュートリアルでは、ワークロードテーブルの例から残りの 3 つのワークロードを追加します。

マシン仕様の詳細

ストレージサイズ (GB) のみを入力した場合、計算ツールは最もコスト効率が高い Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) ストレージオプションを提供します。IOPS **64000**に **16000**~ の値を入力すると、 は io2 EBS ボリュームタイプ AWS 料金見積りツール を推奨します。その範囲を超える値がある場合は、階層化された料金で io2 Block Express AWS 料金見積りツール をお勧めします。詳細については、「Amazon EBS ボリュームのタイプ」を参照してください。

Amazon EC2 インスタンスタイプの詳細

サーバータイプの仕様については、[Amazon EC2 インスタンスタイプの推奨事項を取得する] を選択できます。 AWS 推奨事項は、Windows Server および SQL Server ワークロード用の最新のコスト最適化インスタンスを常に既定値に設定します。

インスタンスタイプをフィルタリングする機能が必要な場合は、Amazon EC2 インスタンスタイプの [Search (検索)] を選択することもできます。インスタンスカテゴリ、メモリ、CPU、その他のオプション別にフィルタリングできます。

vCPUの最適化のメリット

フルサイズのインスタンスと同じメモリ、ストレージ、および帯域幅を使用しながら、vCPU の数を自由に指定できます。つまり、BYOL のお客様は、vCPU ベースのライセンスコストを最適化できます。

CPU 最適化インスタンスは、CPU 用に最適化されていないインスタンスと同じ料金ですが、CPU 数を柔軟に選択できるため、適切な SQL Server ライセンスを持ち込み、追加コストを回避できます。たとえば、`x1e.8xlarge` インスタンスには、既定で 32 個の vCPU があります。ただし、`x1e.8xlarge` の CPU 最適化の値に 16、14、12 を指定できます。

パッシブ SQL Server ノードを使用すると、さらにコストの最適化が可能になります。パッシブ SQL Server ノードは、SQL Server データを提供したり、アクティブな SQL Server ワークロードを実行したりしません。ソフトウェアアシュアランス AWS を使用して SQL Server を に持ち込む場合、パッシブノードで SQL Server をライセンスする必要はありません。

ステップ 4: 料金戦略を選択する

このステップでは、 の料金戦略セクションを使用して料金モデル AWS 料金見積りツール を選択します。

この例の料金戦略を選択するには

1. https://calculator.aws/#/createCalculator/EC2WinSQL の「Configure Windows Server and SQL Server on Amazon EC2」セクション AWS 料金見積りツール を開きます。
2. [料金戦略の選択] セクションの [料金モデル] で、[スタンダードリザーブドインスタンス] を選択します。
3. [Reservation term (予約期間)] で、[1 year (1 年)] を選択します。
4. [Payment options (お支払いオプション)] で、[No Upfront (前払いなし)] を選択します。

> **Note**
>
> これは、オンデマンド料金と比較して最大 75% 節約できる既定の料金戦略です。詳細については、「Amazon EC2 料金表」を参照してください。

ステップ 5: 計算とコストの詳細を確認する

チュートリアル例のこの段階では、コスト見積りの内訳を表示できます。

この例の計算とコストの詳細を表示するには

1. https://calculator.aws/#/createCalculator/EC2WinSQL の「Configure Windows Server and SQL Server on Amazon EC2」セクション AWS 料金見積りツール を開きます。
2. 計算の内訳を表示するには、[計算を表示] の横にある矢印を選択します。
3. EC2 インスタンス、ストレージ、BYOL SQL ライセンス仕様のコストの詳細を表示するには、[コストの詳細] セクションの横にある矢印を選択します。
4. 4 つのサンプルワークロードすべての計算とコストの詳細を確認したら、[サービスを保存して追加] を選択します。

この時点で、Windows Server ライセンス込みおよび SQL Server Bring Your Own License (BYOL) ライセンスに対するワークロードコストの見積り生成に成功しています。既存の見積りのクローンを作成して、SQL Server のライセンス込みオプションの見積りを生成する場合は、ステップ 6: Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加する に移動します。

ステップ 6: Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加する

Windows LI と SQL Server LI を見積りに追加するには

1. AWS 料金見積りツールの [マイ見積り] セクションに移動します。
2. 複製するサービスのチェックボックスをオンにします。次に、[複製] を選択します。
3. 見積りの複製バージョンの [編集] アイコンを選択します。
4. [見積りの詳細] の説明には、**`Workload_LI`** と入力します。
5. [Region (リージョン)] はそのままにしておきます。
6. [Licensing and tenancy recommendation (ライセンスとテナンシーの推奨事項)] セクションで、[Windows Server] および [SQL Server] のチェックボックスをオフのままにします。
7. SQL Server セクションで、マシン仕様を確認、調整します。
8. 新しい月額コストの見積りと合計月額コストを確認します。
9. [更新] を選択します。

[My Estimate (マイ見積り)] ページで、両方のライセンスオプションの下で料金を比較できます。この例では、Windows ライセンス込みと SQL Server の BYOL オプションを使用した共有テナンシーは、Windows ライセンス込みと SQL Server ライセンス込みの共有テナンシーのコストの約半分です。

これで、Microsoft Windows Server and Microsoft SQL を使用して料金の見積りを生成するためのチュートリアルが完了しました。

Windows Servers and SQL Servers on EC2 Dedicated Hosts の見積りの生成

のワークロード計算ツールは、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Microsoft Windows Server と SQL Server の AWS テナンシー資格のガイド AWS 料金見積りツール として使用できます。ワークロード計算ツールを使用して、最小限の情報を使用して AWS コストを見積もったり、概算見積りを生成したりできます。

AWS クラウドで Microsoft ソフトウェアライセンスを使用するオプションについては、「 での Microsoft Licensing AWS」を参照してください。

トピック

- 手順
- ライセンシングとテナンシーの推奨事項
- マシンの仕様
- 専有ホストを確認
- 料金戦略
- コストの詳細
- 専有ホストの一括アップロード手順

手順

Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 Dedicated Hosts の見積りを生成するには

1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. 次のいずれかを行います：
   - Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 で 、[設定] を選択します。
   - [サービスの検索] の検索バーから、[Windows Server and SQL Server on Amazon EC2] を検索します。次いで、[Configure (設定)] を選択します。
4. [Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 の設定] ページで、カスタマイズした設定を選択します。
   - ライセンスとテナンシーのオプションの詳細については、「ライセンシングとテナンシーの推奨事項」を参照してください。
   - マシンの仕様の詳細については、「マシンの仕様」を参照してください。
   - 料金戦略オプションの詳細については、「料金戦略」を参照してください。
   - 専有ホストの確認の詳細については、「専有ホストを確認」を参照してください。
   - コストの詳細については、「コストの詳細」を参照してください。
   - 専有ホストのマシン仕様を一括アップロードする方法については、「専有ホストの一括アップロード手順」を参照してください。
5. [保存してサービスを追加] または [保存して概要を表示] を選択します。

ライセンシングとテナンシーの推奨事項

Windows Server と SQL Server の AWS ライセンス入力の選択を通じて、ワークロードのライセンスオプションとテナンシーオプションを決定できます。ライセンスオプションには、 AWS ライセンス込み (LI) 提供のライセンスが含まれます。また、最適なコスト削減のために、Bring Your Own License (BYOL) オファリングを使用した既存のライセンスも含まれます。どのクラウドテナンシーが最適であるかを判断できます。

次の表は、 でサポートされている AWS ライセンスとテナンシーのシナリオを示しています AWS 料金見積りツール。

Windows Server	SQL Server	AWS テナンシー
LI	LI	共有テナンシー
LI	BYOL	共有テナンシーまたは専有ホスト
BYOL	BYOL	Dedicated Hosts
BYOL	LI	サポートされていません

マシンの仕様

選択したマシン仕様に基づいて、コストの見積りを生成するために が AWS 料金見積りツール 使用する Amazon EC2 インスタンスを選択することをお勧めします。また、選択した一意のインスタンスを選択したり、複数のマシン仕様を追加したりすることもできます。

このセクションでは、「マシン仕様の構成」セクションで説明されている用語を定義します。

マシンの説明

マシンの説明。これは通常、ホスト名識別子です。ホスト名識別子が不明な場合は、このマシンで実行されている一意のソフトウェアコンポーネントを指定できます — 例えば、`WebApp DB1` または `Webserver 1` などです。

オペレーティングシステム

テナンシーの資格に応じて、ライセンスオプション付きのオペレーティングシステムを選択できます。デフォルト値は `Windows` です。

SQL Server エディション

テナンシー資格に応じて、ライセンス付きの SQL Server を選択できます。デフォルト値は `SQL Standard` です。

vCPU、メモリ

マシン構成の vCPUs とメモリ入力の数を入力します。例えば、4 つの仮想 CPU と 8 GB のメモリが搭載されています。

数量

デフォルト値は 1 です。これが、必要な最小数です。

専有ホストを確認

Review dedicated hosts テーブルには、入力内容に基づいて推奨される専有ホストインスタンスファミリーが表示されます。ホストファミリーと説明、インスタンス、ライセンス数、使用済み容量 (仮想コア) などの詳細を確認できます。リスト数は、特定の専有ホストに必要なライセンスを示します。

インスタンスを選択すると、1 つの専有ホスト内に最適にまとめられたマシンが表示されます。

Download CSV を選択すると、専有ホスト、インスタンス、およびライセンス情報をダウンロードできます。

料金戦略

料金戦略セクションの選択により、 が見積りの生成 AWS 料金見積りツール に使用する料金戦略が決まります。

料金モデル

この料金モデルは、従量料金制のインスタンスまたは先行予約可能なインスタンスのうち、どちらを検索しているか決定します。リザーブドインスタンス (RI) の支払いオプションについては、「支払いオプション」を参照してください。

デフォルト値は `Standard Reserved Instances` です。これが最も一般的な Amazon EC2 購入であり、ほとんどのユースケースで最大の割引と柔軟性を提供されるためです。

予約期間

RI を予約すると、契約期間に応じた予約が購入されます。契約期間は、1 年または 3 年からお選びください。デフォルトでは、期間は 1 年です。コストを節約するためです。

支払いオプション

RI 予約の場合、支払いオプションは予約の支払い時期を決定します。

全額前払い – 予約全体に対して前払いを行うため、1 回の支払いになりますが、月ごとの定期的な支払いはありません。このオプションは最大の割引を提供します。

一部前払い – 月額お支払いで、一部前払い料金が少なく済みます。

前払いなし – 月単位でのお支払いです。

デフォルト値は、[No upfront] (前払いなし) です。これにより、スタートアップにおける料金を最小に抑えられます。

コストの詳細

コスト詳細のセクションでは、ワークロードの詳細を説明します。

EC2 インスタンスのコスト

EC2 インスタンスの内訳のまとめです。各行で一時停止して、インスタンスタイプ、オペレーティングシステム、SQL バージョン、vCPU、メモリ、数量、CPU の最適化、SQL パッシブノードなどの追加情報を表示します。

Amazon EBS のコスト

Amazon EBS の品目別コスト内訳

SQL による独自ライセンスのサマリー

BYOL SQL Server ライセンスのコア数を明確にするサマリーです。

専有ホストの一括アップロード手順

一括アップロードを使用して、マシン構成、オペレーティングシステム、SQL Server エディション、数量、vCPU、メモリを Excel ファイルでアップロードできます。バッチアップロードでは、こ

の Excel ファイルが AWS 料金見積りツールにアップロードされます。これを行うには、提供される Excel テンプレートワークシートを使用します。

Excel ワークシートテンプレートをダウンロードするには

1. https://calculator.aws/#/ AWS 料金見積りツール で を開きます。
2. [Create estimate (見積りの作成)] を選択します。
3. 次のいずれかを行います：
   - Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 で 、[設定] を選択します。
   - 検索サービスの検索バーから、Windows Server and SQL Server on Amazon EC2 を検索します。
4. [Configure Windows Server and SQL Server on Amazon EC2] ページの [一括アップロード手順] セクションで、[テンプレートをダウンロード] を選択します。

   詳細については、「マシンの仕様」を参照してください。
5. ローカルマシンでダウンロードしたファイルに移動します。

> **Important**
>
> テンプレートから列を削除しないでください。
> テンプレートには列を追加しないでください。
> テンプレートワークシートの位置は変更しないでください。

> **Tip**
>
> データ例については、スプレッドシートの「例」を参照してください。

6. [ファイルをアップロード] を選択します。
7. マシン仕様表の [ステータス] 列を参照して、テンプレートが正しくアップロードされたかどうかを確認します。
   - 承認 - 入力されたデータは正しい形式です。このデータは、推奨事項を提供するために使用できます。
   - 拒否 - データ形式が無効です。同じ列からアップロード失敗の理由を確認できます。ファイルを修正したら、前の手順を使用して再度アップロードします。

却下された失敗の理由が解決されない場合、これらの行は「専有ホストのレビュー」表の「専有ホストに関する推奨事項」に含まれません。

8. 専有ホストのレビューセクションを使用して、ホストファミリー、ホストの説明、インスタンス、ライセンス数、使用済み容量などの詳細を確認してください。詳細については、「専有ホストを確認」を参照してください。
9. Dedicated Host のコストセクションを使用して、ワークロードの詳細を確認してください。

   コスト表には、時間あたりのコスト、ユニットあたりの月額コスト、および最初の 12 か月間のコストを含めて、専有ホストの内訳が項目別に表示されます。費用はすべて USD で表示されます。
10. License (s) 概要セクションを使用して、推奨される専用ホスト AWS の に持ち込む必要があるライセンスのリストを明確にします。
11. [サービスを保存して追加] を選択して見積もり価格を保存し、 AWS 料金見積りツールにサービスを追加します。

AWS Modernization Calculator を使用した Microsoft の見積りの生成

AWS Microsoft ワークロード用のモダナイゼーション計算ツールは、デプロイされたオープンソースおよび AWS クラウドネイティブサービスを使用して Microsoft ワークロードをモダナイズするための料金見積もりを提供します AWS。

この計算ツールは、Windows および SQL サーバアプリケーションを最新のアーキテクチャに変換するための推定総保有コストを作成します。計算ツールを使用するには、 は必要ありません AWS アカウント。

AWS Microsoft ワークロード向けのモダナイゼーション計算ツールでは、多層、バッチ処理、CI/CD、コンテナ化などのアプリケーションパターンにモダナイズアーキテクチャを推奨しています。これらの推奨事項は、 AWS 顧客コミュニティによって一般的に採用されているアーキテクチャに基づいています。この計算ツールを使用すると、信頼性の高い方法でモダナイゼーションコストの見積りを取得できます。詳細な評価を行う必要はありません。この情報を使用して、Migration Hub Strategy Recommendations で詳細な評価を行うことができます。詳細については、「What is Migration Hub Strategy Recommendations?」(Migration Hub Strategy Recommendations とは？) を参照してください。

トピック

- 手順
- アーキテクチャのカテゴリとパターン
- アーキテクチャサイズ
- モダナイズされたアーキテクチャパターン
- AWS サービス設定
- マイ見積り

手順

Microsoft ワークロード用の AWS モダナイゼーション計算ツールを使用して見積りを生成するには

1. Microsoft ワークロード用の AWS モダナイゼーション計算ツールを https://modernization.calculator.aws/microsoft/workload で開きます。
2. [新しい見積り] セクションで、この見積りの説明を追加します。
3. [現在のアプリケーション/ワークロードの場所] セクションで、アプリケーションのデプロイ先の現在の場所を選択します。
4. [アーキテクチャカテゴリ] と [アーキテクチャパターン] を選択します。

   アーキテクチャのカテゴリとパターンの詳細については、「アーキテクチャのカテゴリとパターン」を参照してください。
5. [次へ] を選択します。
6. [アーキテクチャサイズの選択] ページで、アーキテクチャの特性 (オプション) とサイズを選択できます。

   詳細については、「アーキテクチャサイズ」を参照してください。
7. [Next] (次へ) を選択します。
8. [モダナイズされたアーキテクチャパターンの選択] ページで、アプリケーションのモダナイズされたアーキテクチャパターンを選択します。

   詳細については、「モダナイズされたアーキテクチャパターン」を参照してください。
9. [Next] (次へ) を選択します。
10. [サービス設定の編集] ページで、推奨事項の概要を確認します。

    詳細については、「AWS サービス設定」を参照してください。
11. Microsoft 見積りの概要については、[保存] を選択します。

詳細については、マイ見積りを参照してください。

アーキテクチャのカテゴリとパターン

[アーキテクチャパターン]、[ユースケース] または [カスタム] から選択して、アプリケーションのアーキテクチャカテゴリを指定できます。カテゴリを選択すると、アプリケーションを分析するための追加オプションが提供されます。

- [Architecture pattern] (アーキテクチャパターン) とは、組織内のソフトウェアシステムの基本スキーマを指します。プログラムの構造的構成と要素間の相互作用を定義します。ほとんどの企業で一般的に見られるパターンには、次のものがあります。
  - [Multi-tier] (多層) パターンは、何十年もの間、基盤となるアーキテクチャパターンであり、ユーザー向けアプリケーションにとっては依然として一般的なパターンです。通常、多層パターンは、プレゼンテーション層、データ層、およびロジック層で構成されます。これらの 3 つの層は、同じサーバーまたは個別のサーバー上でホストできます。このパターンは、分離および独立したスケーラブルなアプリケーションコンポーネントを個別に開発、管理、およびメンテナンスできるようにするための一般的なフレームワークを提供します。
  - [バッチ処理]は、コンピュータが大量の繰り返しデータジョブを完了するために定期的に使用する方法です。バックアップ、フィルタリング、ソートなどの特定のデータ処理タスクは、個々のデータトランザクションで実行するために計算量が多く非効率的な場合があります。代わりに、データシステムでは、そのようなタスクをバッチで処理します。これらのタスクは、夕方や夜間などのオフピーク時に処理されます。
- [Use case] (ユースケース) には、グループ化されたアーキテクチャパターンが含まれます。このグループ化は、タスクの実行に関するさまざまなチームによるコラボレーションを表します。ユースケースはさらに次のように分類されます。
  - [ソフトウェア開発] には、ソフトウェアの作成、テスト、ステージング、デプロイなどのいくつかのステップが含まれます。組織内の複数のチームがグループとしてコラボレーションを行ってソフトウェアを作成します。
  - [Container] (コンテナ) は、アプリケーションのコード、設定、および依存関係を 1 つのオブジェクトにパッケージ化する標準的な方法を提供します。コンテナは、サーバーにインストールされたオペレーティングシステムを共有し、リソースが分離されたプロセスとして実行します。これにより、環境に関係なく、迅速で信頼性が高く、一貫性のあるデプロイが保証されます。コンテナは軽量で、一貫性のある移植可能なソフトウェア環境を提供し、実質的に場所に制限されることなくアプリケーションを実行およびスケールできます。マイクロサービスの構築とデプロ

イ、機械学習アプリケーションのバッチジョブの実行、既存のアプリケーションのクラウドへの移行は、一般的なユースケースの一部にすぎません。

- カスタムカテゴリでは、 AWS のサービス リストから関連する を選択してカスタムアーキテクチャを構築できます。これは、アプリケーションのアーキテクチャパターンにおける AWS のサービス とその役割に精通している場合に適しています。

アーキテクチャサイズ

このステップには、アプリケーションのアーキテクチャの詳細に関する短いアンケートが含まれます。質問はすべてオプションです。回答に基づいてサイジングの推奨事項が提供されます。デフォルトの推奨事項は [スモール] です。

質問に答えることを選択した場合、計算ツールはサイズを推奨します。推奨されたサイズで続行するか、ビジネス要件を満たすサイズを選択できます。

モダナイズされたアーキテクチャパターン

前のステップで入力した内容に基づいて、モダナイズされたアーキテクチャパターンオプションが提供されます。パターン図をダウンロードして詳細を確認できます。

複数のオプションが表示された場合は、推奨されるパターンまたは別のパターンを選択できます。オプションがない推奨事項が 1 つある場合は、推奨されるパターンを選択して次のステップに進みます。

AWS サービス設定

このページでは、推奨事項の概要を示します。推奨 のリストが表示されます AWS のサービス。任意のサービスを追加または削除し、各サービスの推奨設定を変更できます。

- [AWS リージョン] には、モダナイズされたアプリケーションをホストするリージョンを選択できるドロップダウンリストがあります。 AWS のサービス の料金はリージョンに応じて異なる場合があります。
- [推定コスト] には、モダナイズされたアプリケーションを AWS上で実行するための月額コストの合計が表示されます。このコストは実際の料金見積りとして意図されたものではありません。データ転送料金や、 AWS のサービスによって提供される追加の設定は考慮に入れられていません。
- [AWS のサービス] には、モダナイズされたアプリケーション向けに推奨されるサービスの一覧が表示されます。このリストから任意のサービスを追加または削除できます。各サービスカードを展

開して、そのサービスのサイズとパラメータを変更できます。また、各サービスカードにある [計算の表示] を拡張することで、各サービスのコストの内訳を確認することができます。

- [Save] (保存) を選択すると、[My Estimate] (マイ見積り) ページに見積りがグラフィカルに表示されます。

マイ見積り

このページでは、モダナイズされたアプリケーションの見積りを提供します。このページでは以下の操作を実行できます。

- 同じワークロードの複製、または新しいワークロードの見積りへの追加。
- ワークロード内のアプリケーションの数の増減。
- ワークロードを編集 AWS のサービス して、推奨 を変更します。
- 見積り サポート にアクセスするためのコストを追加します。
- Excel ファイルへのエクスポート、または一意の URL での見積りの共有。

共有見積りを取得して変更する場合は、変更されたバージョンを保存して共有する必要があります。修正内容は、元の見積りには自動的に追加されません。

のセキュリティ AWS 料金見積りツール

のクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS 、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャを活用できます。

セキュリティは、 AWS とお客様の間の責任共有です。責任共有モデルでは、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。 AWS また、 では、安全に使用できるサービスも提供しています。サードパーティーの監査者は、AWS コンプライアンスプログラムコンプライアンスプログラムの一環として、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証。が適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については AWS 料金見積りツール、AWS 「コンプライアンスプログラムによる対象範囲内のサービス」を参照してください。
- クラウドのセキュリティ – お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、ユーザーは、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

AWS 料金見積りツール はパブリックインターフェイスです。指定した情報は保存されず、入力を収集したり、入力を AWS アカウントに関連付ける AWS ことはありません。

トピック

- でのデータ保護 AWS 料金見積りツール
- のコンプライアンス検証 AWS 料金見積りツール

でのデータ保護 AWS 料金見積りツール

責任 AWS 共有モデル、 でのデータ保護に適用されます AWS 料金見積りツール。このモデルで説明されているように、 AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任がありますAWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。このコンテンツには、使用する AWS サービスのセキュリティ設定および管理タスクが含まれます。データプライバシーの詳細については、「データプライバシーのよくある質問」を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された AWS 責任共有モデルおよび GDPR のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、（AWS Identity and Access Management IAM) を使用して AWS アカウント 認証情報を保護し、個々のユーザーアカウントを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な許可のみを各ユーザーに付与できます。また、次の方法でデータを保護することをお勧めします。

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 以降が推奨されます。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。
- AWS 暗号化ソリューションと、 サービス内のすべての AWS デフォルトのセキュリティコントロールを使用します。
- Amazon Macie などのアドバンストマネージドセキュリティサービスを使用します。これは、Amazon S3 に保存されている個人データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-2 検証済みの暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。使用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「連邦情報処理規格 (FIPS) 140-2」を参照してください。

顧客の E メールアドレスなどの機密情報やセンシティブ情報は、タグや [Name] (名前) フィールドなどの自由形式のフィールドに配置しないことを強くお勧めします。これは、コンソール AWS 料金見積りツール 、API、または SDK を使用して AWS CLIまたは他の AWS のサービスを使用する場合も同様です。 AWS SDKs タグまたは名前に使用する自由記入欄に入力したデータは、課金や診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

のコンプライアンス検証 AWS 料金見積りツール

サードパーティーの監査者は、複数のコンプライアンスプログラムの一環として AWS 料金見積りツール のセキュリティと AWS コンプライアンスを評価します。 AWS 料金見積りツール は AWS コンプライアンスプログラムの対象ではありません。

特定のコンプライアンスプログラムの対象となる AWS サービスのリストについては、「コンプライアンスAWS プログラムによる対象範囲内のサービスコンプライアンス」を参照してください。一般的な情報については、AWS 「 Compliance ProgramsAssurance」を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS 料金見積りツール は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。 は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- セキュリティとコンプライアンスのクイックスタートガイド — これらのデプロイガイドでは、アーキテクチャ上の考慮事項について説明し、機密性とコンプライアンスに焦点を当てたベースライン環境を AWSにデプロイするためのステップを提供します。
- AWS コンプライアンスリソース – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- 「 デベロッパーガイド」の「ルールによるリソースの評価」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。 AWS Config
- AWS Security Hub – この AWS サービスは、 内のセキュリティ状態を包括的に把握 AWS し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスへの準拠を確認するのに役立ちます。

リソース

このサービスを利用する際に役立つ関連リソースは次のとおりです。

サービス固有のリソース

各 AWS サービスには、サービスの理解に役立つ独自のドキュメントがあります。

- AWS 料金見積りツール よくある質問 – AWS マーケティングページに記載されているFAQsをご覧ください。
- AWS 料金見積りツール 料金の前提 — AWS 料金見積りツール 料金の免責事項を理解します。
- AWS IQ – IQ AWS の AWS 認定されたエキスパートとつながり、見積りに関するサポートを受けてください。
- Amazon Elastic Compute Cloud のドキュメント – このドキュメントは Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) の使用について説明しています。
- Elastic Load Balancing のドキュメント – このドキュメントは Elastic Load Balancing の使用について説明しています。
- Amazon Elastic Block Store のドキュメント – このドキュメントは Amazon Elastic Block Store の使用について説明しています。

一般的な AWS リソース

AWS には、役立つガイド、フォーラム、連絡先情報、その他のリソースがいくつか用意されています。

- AWS デベロッパーリソースセンター – 革新的なアプリケーションの構築に役立つドキュメント、コードサンプル、リリースノート、その他の情報を見つけるための一元的な出発点を提供します AWS。
- AWS トレーニングとコース – AWS スキルを磨き、実践的な経験を積むのに役立つ、ロールベースの専門コースとセルフペースラボへのリンク。
- AWS デベロッパーツール – 革新的なアプリケーションの構築に役立つドキュメント、コードサンプル、リリースノート、その他の情報を提供するデベロッパーツールとリソースへのリンク AWS。

- AWS サポート センター – AWS サポート ケースを作成および管理できるハブ。また、フォーラム、技術的なFAQs、サービスのヘルスステータスなど、その他の役立つリソースへのリンクも含まれています AWS Trusted Advisor。
- AWS サポート – クラウドでのアプリケーションの構築と実行に役立つ AWS サポート one-on-one の高速応答サポートチャネルに関する情報のプライマリウェブページ。
- お問い合わせ — AWS 請求、アカウント、イベント、不正使用、その他の問題に関するお問い合わせのお問い合わせ先です。
- AWS サイト規約 – 当社の著作権と商標、お客様のアカウント、ライセンス、サイトアクセス、およびその他のトピックに関する詳細情報。

ユーザーガイドのドキュメント履歴

次の表に、このリリースのドキュメントを示します AWS 料金見積りツール。

- ドキュメントの最新更新日: 2019 年 12 月 16 日

変更	説明	日付
新しい保存と共有機能	見積りの保存と共有セクションを追加しました。	2019 年 12 月 16 日
UI の更新	UI が更新され、ネストされたグループが有効になりました。	2018 年 12 月 17 日
初回起動	ドキュメントの初版。	2018 年 10 月 23 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。